from WASHINGTON D.C.

ホワイトハウス

政治の街ワシントンD.C.とKストリート

ニューヨークには金融街の象徴として有名なウォール・ストリートがありますが、ワシントンD.C.（以下「D.C.」）には、Kストリートという政治の街D.C.の特徴を表す通りがあります。D.C.は、人工計画都市であるため、中心部は区画整理され、南北に走る通りには数字、東西に走る通りにはアルファベットの名前が付けられているほか、米国の州の名前が付けられた通りが斜めに走っています。州の名前の付いた通りで有名なのは連邦議会（通称キャピトル・ヒル）と大統領府（通称ホワイトハウス）を結ぶ線上のPennsylvania Avenue（ペンシルベニア通り）であり、日本銀行ワシントン事務所は、この通りに面しています。また、各国の大使館が立ち並び「大使館通り」とも呼ばれるMassachusetts Avenue（マサチューセッツ通り）もよく知られています。

左／Kストリートの標識
下／キャピトル・ヒル

さて、Kストリートはなぜ有名なのでしょうか。D.C.には、連邦議会と大統領府に加えて、これに大きな影響を及ぼす存在であるシンクタンクやロビイストが多く存在します。シンクタンクは、政策提言を行うだけでなく、政権の人材供給源ともなっており、過去の政権の高官や次の政権の高官候補者が少なくありません。ロビイストは、弁護士等であることが多いため、法律事務所には、ロビー活動を行う弁護士が少なくありません。D.C.のオフィス街の中心を東西に走るKストリートおよびその周辺には、シンクタンクや法律事務所のオフィスが多いため、現政権や二大政党（民主党・共和党）に政策提言する、あるいは、陳情・働き掛けを行う人が集まるわけです。こうした事情を反映して、「米国の政策は、キャピトル・ヒルとホワイトハウスとKストリートで決められている」と言われることがあります。

米国では、11月の大統領選挙と議会選挙の行方が注目されていますが、選挙結果は、キャピトル・ヒルとホワイトハウスの住人だけでなく、Kストリートの住人にも大きな影響を及ぼす可能性があります。このように、政治の街D.C.では、キャピトル・ヒルとホワイトハウスに加えてKストリートにも注目していく必要があり、日本銀行ワシントン事務所においても、そうした観点からの情報収集に努めています。

（日本銀行ワシントン事務所）